



永禄元年(1558)建立の西迎寺。境内に湧き出る「洗心甘露水」は海に近いにも関わらず塩分がなく、名前の通り、甘みを感じる名水。



地藏鼻では火山活動で噴出したマグマによってできた地層の変化を見ることが出来る。



サイの仲間



ツルの仲間



本尊である帝釈天が下浜の平島に流れ着いた時、枕にして横たわっていたと伝わる「枕石」。記念として石を切取ら運ばれた。



帝釈寺は、大宝2年(702)に法相宗の開祖である道照上人によって再建されたと伝わる古刹。江戸初期の作庭とされる庭園は小堀遠州に共通する点が多く、特に石組が美しい。校の名所でもあり、3月下旬には珍しい五色椿が境内裏手に花を咲かせる。

の日本列島が大陸から切り離された頃のゾウ・サイ・シカなどの仲間の足跡化石が見つかったことで、この辺りは川か湖だったと考えられている。水辺に集まった動物たちが残した足跡は、日本海形成の謎を解き明かす重要な手掛かりとなっている。

一方、集落内に入ると、焼板塀の家々が肩を並べ、細い路地が入り組んだ港町特有の町並みを見ることが出来る。迷路のような路地は旅の好奇心をかき立て、丸形のポストや舟屋の名残りをとどめる家屋など、どこか懐かしい雰囲気が町全体に漂っている。

冬は雪景色、夏は漁火と四季折々の表情を見せる下浜の海岸線。喧嘩から離れて、のんびりと散策するには格好の場所である。

●「裏路地探検」に参加してみませんか!!
 平成26年1月18日(土) 10:00~12:00
 「養蚕農家の面影をたどる」養父市大屋町大屋市場
 *実施日の10日前までに、18ページ掲載のT2編集部へ、住所・氏名・年齢・電話番号・「裏路地参加希望」とお書きの上、ハガキで申し込みください。開催は午前中、現地集合・現地解散となります。申込締切日後、案内を参加ご希望の方へ送付致します。

裏路地探検

海辺の漁師町で日本海形成の足跡をたどる / 香美町香住区下浜

断崖、洞門、岩礁など様々な表情を見せる、国指定の名勝「香住海岸」。中でも香住湾の西側に位置する香美町香住区下浜は、日本海の雄大な景色が望める風光明媚な場所。

集落内には38軒の旅籠・民宿が軒を並べ、夏の海水浴、冬のカニシーズンには多くの観光客が訪れて賑わいを見せている。

以前は大半の家が半農半漁で生計を立てており、冬場は出稼ぎに出ていたそう。

近年では山陰海岸ジオパークのテーマである日本海形成から現在に至るまでの多様な地形・地質を間近で感じられる場所としても人気がある。

「下浜のよい所は海岸線が長いこと。変化に富んだ海岸線が自慢です。磯場は子どもの頃、格好の



但馬松島や香住湾、白石島などの景観が望める「地藏鼻」。お地藏さんが安置されていて、別名「アゴなし地藏」と呼ばれる。地元では歯痛が治ると伝承されている。娯捨伝承が残る「ぼぼ落とし」では、岩の割れ目から吹き出す波が狂巻。



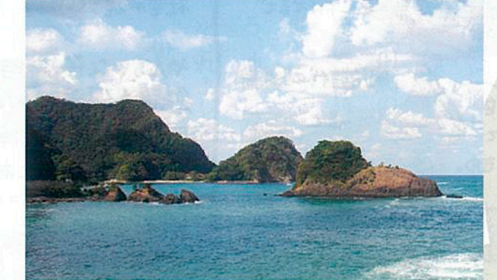
ぼぼ落とし



あずまの向かいにある「連痕化石(上)」は、調査により、流痕であることが分かった。流痕は湖や川の底にできる水流の痕で、淡水魚の化石が発見されていることから、この地には淡水の環境があったことが分かっている。



平島周辺に残るかつての舟屋の面影が漂う家屋(右)。護岸整備されるまではこの辺りまで海だった。また、集落内には焼板塀の家々が軒を連ね、漁師町の佇まいを見せる。



地藏鼻から見る「但馬松島」の光景。弁天島(右)はライオンが伏せているように見えることから「ライオン島」とも呼ばれる。島内には海上の守護神である弁天さんが祀られ、漁に出て行く漁師たちの安全を見守っている。

遊び場でした」と、案内役の松下弘行さん。

三田浜海水浴場まで続く道は「希望の道」と呼ばれ、散策道として整備されている。途中にある「地藏鼻」にはあずまやが設置されており、そこからの眺望は日本海と弁天島、四ッ島といった島々とのコントラストが大変美しく、「但馬松島」と呼ばれる絶景を楽しませてくれる。

集落の人もあずまやまでわざわざバイクで乗りつけ、ウォーキングに出かけるそう。

漁港の南側にある「平島」は、波の侵食によって平らになった波食棚が広がる場所。釣りのスポットであるこの地は、平成15年に「動物の足跡化石」が発見されたことで、一躍注目されるようになった。

今から約2千〜1千7百万年前

風光明媚な海岸線が続く海辺の漁師町...
 但馬松島や動物の足跡化石、連痕化石など、
 日本海形成のドラマを垣間見る地質遺産